



2024年度  
後期号

世界がひろがる！

# こどもと地図

この絵の舞台は…

京都府 京都市

解説はp.23

## 2 児童の地図作品の紹介

地図記号「▽」の中には何がある？

岐阜市畑マップ 星野友美

## 4 他教科で地図活用 国語科

(5年)

地図帳で深まる主体的な学び  
～国語教科書の説明文を例に～  
新宅直人

## 6 学年別 地図活用のポイント

(6年)

江戸時代に生まれた新しい文化と  
それを支える産業・交通を読み解く  
～歌舞伎から伊能図まで～  
寺本 潔

## 8 地図にかいてみよう

スーパーマーケットの品物はどこから  
吉田和義

## 10 わたしの地図活用

(4年)

QRコンテンツ「47都道府県地図」を活用した  
「わたしたちの県」の学習の提案  
～北海道札幌市を例に～  
関本勝幸

付録

帝国書院

江戸時代に  
タイムスリップ！  
街道すごろく

## 13 わたしの地図活用

(5・6年)

祝 放鳥15周年！ 世界の国とトキの意外な関係？  
猪股快門

## 16 授業でデジタル地図帳を活用しよう！

192Cafe × デジタル地図帳  
コラボイベントが開催されました！

## 19 バーバラ・ベチュニク子供地図展作品募集

## 20 地図の深読み

都道府県名に注目してみた 今尾恵介

## 22 最新インフォメーション

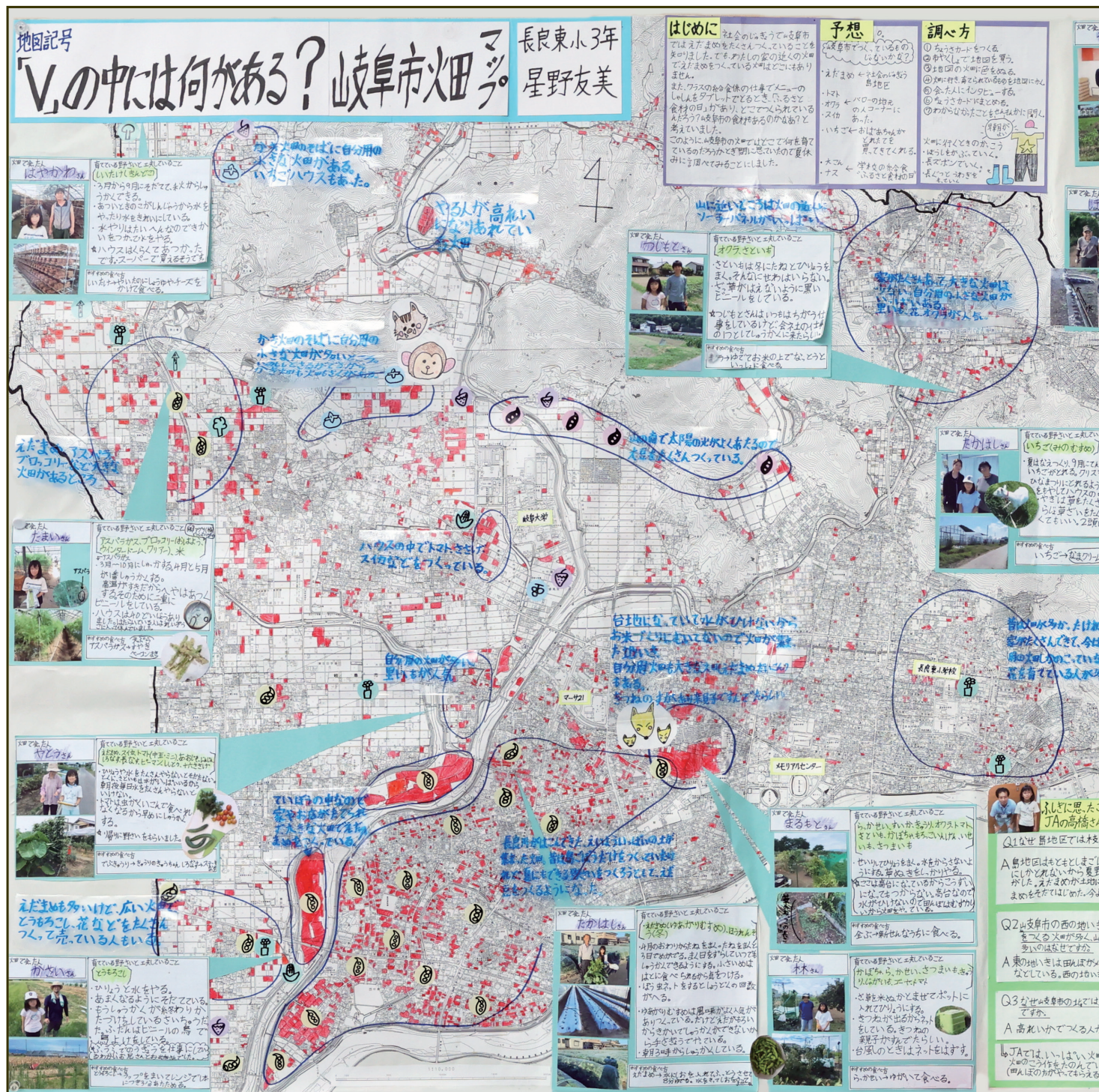
日本と世界の動き



# 児童の地図作品の紹介



今号は、第29回児童生徒地図作品展から星野友美さんの作品を紹介します。



## 児童生徒地図作品展（岐阜県）について

「児童生徒地図作品展」は、児童生徒の自主的な研究活動を奨励し、地図に関する興味や関心、活用能力を高めることを願って、岐阜県図書館が開催しています。平成7（1995）年から始まり今年度で30回目になります。岐阜県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍する児童生徒（個人または

グループ）であれば誰でも応募できます。一定の主題が表現されている地図作品を募集しており、日常生活のちょっとした疑問をきっかけに地域を歩き回って調べたり、施設などを訪問してインタビューしたりするなど、夏休みをうまく活用して、時間をかけて丁寧に調査制作された力作が多く出品されます。毎年200点ほどの応募があり、審査により選出された作品約60点を当館内で10月から11月頃に展示します。（岐阜県図書館）





▲畑で実際に作られている作物を歩いて調べ、わかったことをオリジナルな地図記号で表し地図にビニールにはり、調べた畑の様子を書いているところ。

◎ 作成者 岐阜県岐阜市立長良東小学校 3年 星野友美

## 地図記号「V」の中には何がある？ 岐阜市畑マップ

社会のじゅぎょうで岐阜市では えだまめを多くつくっていることを知りました。でも、近所の畑で えだまめを見ません。また、きゅう食の「ふるさと食材の日」は、どこでとれたのかな？と考えていました。なのでどこの畑で何がつくられているか調べることになりました。

畑でつくられているものや、畑の多い所、少ない所、畑仕事のたいへんさなどが分かりました。やる人のいない畑がふえていることや、この問題についてがんばる人がいることに気づきました。わたしも、「地図をつくって、知ってもらおう！」とがんばってよかったです。

(学年は作成時)

## ◎ 講評

地図の上では一つの記号で表されている畑で、実際にはどのような作物が育てられているかを現地へ行って丹念に調べてきました。農作業のやり方などは、地元の人や専門家にインタビューをして教えてもらいました。その結果は、オリジナルな地図記号を使った分かりやすい地図にまとめられています。作物ごとに地域的なまとまりがあることや、耕作されていない畑があることも分かりました。岐阜市の畑作について豊富な情報が得られる地図です。

(第29回児童生徒地図作品展 審査委員長 野々村 邦夫)

## 児童生徒地図作品展

<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/info-events/exh/map-exhibition/>





# 地図帳で深まる主体的な学び

～国語教科書の説明文を例に～

●東京都杉並区立天沼小学校 指導教諭 新宅直人



## 1 国語の授業における地図帳活用の可能性とは？

「地図帳といえば、社会科の授業で使うのが当たり前」と考える先生は少なくないと思います。しかし、例えば地図帳を活用することで、国語、理科、家庭科、外国語など、さまざまな教科の学習を深められる可能性があるのではないのでしょうか。

今回は国語の学習で地図帳をどのように生かせるかを考えてみました。例えば、「**都道府県の漢字**」は手軽に活用ができそうです。現行の学習指導要領では各都道府県の名前に使われている漢字を4年生で学習することになったので、それに合わせて地図帳でその都道府県の特産物や有名なものを調べて、短文を作ってみるという活動ができそうです。例えば「和紙作りがさかんな岐阜県。」や「滋賀県には日本一広い琵琶湖がある。」のように楽しみながら漢字の学習ができます。

また、**物語文の学習**でも地図帳が役に立つ可能性が多くあります。物語の舞台となっている地域や国が明らかになっている場合には、そこがどのような場所なのかを地図帳で調べてみることで想像を広げることができます。例えば、『大造じいさんとガン』に登場する栗野岳（鹿児島県）がどのような場所にあるのかを調べたり、『やまなし』の学習と関連して、宮沢賢治が考えたイーハトーヴの世界と実際の岩手県の地図を見比べたりする活動などが考えられます。

## 2 説明文の学習で地図帳が大活躍！

説明文で扱われる教材にはさまざまなものがありますが、中には地理的な要素を含んだものも少なくありません。その場合には、単元を通して地図帳が活躍できる場面が多くあります。今回は光

村図書の5年生の教科書に掲載されている『固有種が教えてくれること』を例に考えてみたいと思います。この教材では教科書の本文中でもいくつかの地図が提示されており、地図帳との相性はとてもよいといえます。日本における固有種の分布や特徴について、アマミノクロウサギやニホンカワウソ等のいくつかの生物の分布や特徴について説明されているのですが、これを読んだ子どもたちからは「日本には、他にはどんな固有種がいるのだろう。」や「日本と同じような地形や気候の国って他にはないのかな？」といった多くの疑問が生まれてきます。それらの疑問からスタートする探究的な学びを支え、理解を深める手立てとなるのが地図帳です。

## 3 活用① 各都道府県に生息している固有種は？

地図帳の各地方のページには、それぞれの都道府県に生息している特徴的な生き物が多く紹介されています（図1）。

教科書では奄美群島に生息しているアマミノクロウサギが固有種の例として紹介されているので、他の地域にはどのような固有種がいるのか調べてみると、発見が多くあります。図1のように、地図帳では「貴重な動植物」は **ビワコオオナマズ**



図1 近畿地方のページに描かれている貴重な動植物の例  
(令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.48)



のように表わされ見つけやすくなっていることもポイントです。特にカモシカについては教科書本文の後半で、個体数が増加していることについて触れられていることもあり、どの県に生息しているのかを調べてみると、和歌山県や新潟県、山形県などさまざまな県で生息していることがとらえられます。ただし、ここで調べた生き物すべてが「固有種」ではない可能性もあるので、地図帳で見つけた生き物について図鑑やインターネットでも調べてみるとよいと思います。

#### 4 活用2 日本と同じような地形条件の国はある？

本文中では、日本の固有種たちが何万年もその地で繁殖し続けてきた理由として、①国土が南北に長いために寒い地域とあたたかい地域の気候の違いが大きいこと、②地形が変化に富んでおり、平地から標高3000mを超す山岳地帯までであることの2点を挙げています。このような条件の国は世界で日本だけでしょうか？地図帳で世界の国々の形や標高差に着目して、似たような条件の国を探す活動をしてみましょう（写真1）。

一つ目の条件である「南北に長い国土をもつ」は、例えばベトナムやインド等が見つかると思います。二つ目の条件である「高低差の大きい国土」を探す時には、各ページに表示されている高さの凡例を大いに活用しましょう（図2（左））。地図の色分けによって土地の高低が表現されています。

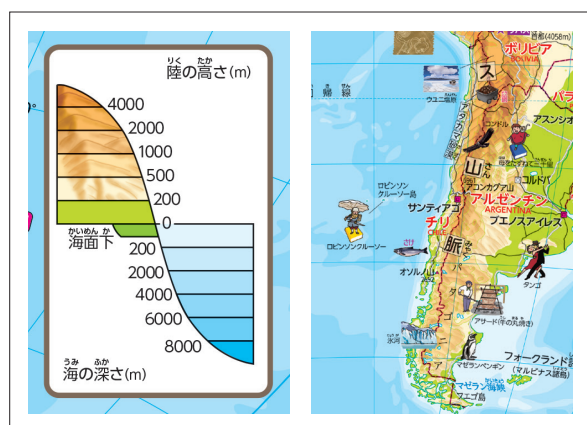


図2 各ページにある土地の高さの凡例（左）とチリ周辺の様子（右）  
（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.92）



写真1 南北に長い国は？

ちなみに2つの条件に合致する国の例としてチリがあります。もちろん、チリは日本と同様に動植物の固有種が多く存在しています（図2（右））。

#### 5 活用3 世界にはどんな熊の仲間がいる？

教科書では、北海道に住んでいるヒグマがヨーロッパにまで広く分布していることについて記述があります。世界の他の地域にはどのような熊が生息しているのでしょうか。熊の仲間以外にも、鳥類や猿の仲間などは地域によってさまざまな特徴ある生物が紹介されているので、早く終わった児童に探させてみるのもよいと思います（図3）。



図3 地図で見つけた世界各地の熊や鳥類  
（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.83、84、88、91）

#### 6 まだまだ広がる地図帳活用の可能性

今回は説明文の学習での地図帳の活用を提案させていただきました。社会科以外の教科で地図帳をどう活用していくのかはまだ十分に研究されていないので、意外な活用方法が眠っている可能性もあります。ぜひ、みなさんも既成概念にとらわれずにさまざまな教科で地図帳を使ってみてください。



# 江戸時代に生まれた新しい文化と それを支える産業・交通を読み解く

～歌舞伎から伊能図まで～

●公立大学法人 名城大学国際学部 特任教授・玉川大学 名誉教授 寺本 潔

「将軍のおひざもと」とよばれ、人口100万超の大都市に成長した江戸は、五街道も整備され、全国から多くの人やものが行き来しました。「天下の台所」と称される大阪と合わせ、地図帳から江戸時代の新しい文化と産業・交通を読み解きます。

## 1 屋台を引く祭りや歌舞伎・人形浄瑠璃・浮世絵の繁栄は江戸時代

江戸時代には、屋台（山車）や燈籠が登場する祭りや歌舞伎・人形浄瑠璃・浮世絵は人々の楽しみとして各地に広まり、通りや芝居小屋は見物客で賑わいました。近松門左衛門や葛飾北斎・歌川広重、松尾芭蕉も登場する江戸時代の文化は現代にも受け継がれています。令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』（以下、地図帳）の「広く見たす地図」(p.21～30〈\*p.19～28〉)には、戦国時代から江戸時代に生まれた安来節、鷺舞、阿波おどり、兼六園、高山祭、秩父夜祭、偕楽園、秋田竿燈まつり、青森ねぶた祭（人形型）をはじめ多くの祭りや行事、庭園、城、工芸品、芸能のイラストが載っています（図1）。また、p.69～70「江戸（江戸時代後期）」には、歌舞伎や奉納相撲もあります。

文化の発信地を地図帳で確かめることは、文化が各地にどのように広がり変化・定着したかという「伝播と変容」の観点からも大切な見方を養う

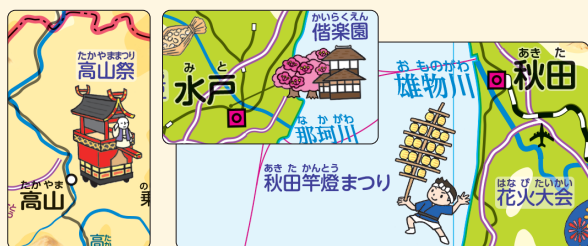


図1 江戸時代に発達した祭りと庭園の例

令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.25～27

※ 〈 〉 は、令和2年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』のページをさす。

ことになります。「各地にはいろいろな祭りがあるけれど、屋台に飾りをつけて引いたり、何かを願って踊ったり、粋で勇ましい姿を示すことは共通しているようだね」とイラストを見比べさせながら、類似点を見つける読み解きも興味深いです。

## 2 街道と航路の整備で生じた各地の産物とその流通を想像する

島原・天草一揆（1637～1638年）の後、幕府は長崎だけに貿易港を絞る「鎖国」政策を敷いたことは有名です。半面、そのことが各藩で自律的に国内生産を発展させ、特産物や工芸品が生まれました。加えて、参勤交代の制度化により街道や大阪を中心に全国をつなぐ航路も整備が進みました。北前船や街道を使って昆布や米、塩、酒や人の行き来が盛んになりました。

この時代の産物の中で筆者が注目した産物が3つあります。最上紅花と砂鉄、薩摩上布です。それらを地図帳で確かめようと地方図（地図帳p.75～76〈p.67～68〉）を開くと、山形県に「べにばな」の産物記号（🌸）がありました（図2 A）。西には「阿波の藍玉」、東には「最上紅花」と称される江戸時代の二大染料の一つがこれです。紅花（紅餅に加工）から手に入る染料のおかげで京都の着物文化（西陣織や化粧用の紅）が彩られました（輸送には最上川を下り、酒田港から海路敦賀へ、そこから陸路で京都へ）。2点目は、島根県の山間部（地図帳p.39～40〈p.37～38〉）に「菅谷たたら山内」（映画『もののけ姫』の舞台モデル）と印字された史跡・名勝記号（♨）が製鉄を物語っています（図2 B）。砂鉄のおかげで江戸時代の新田開発を支えた備中ぐわ・千歯こき（農具）、武士が使う日本刀が普及できたのです。



## 6 年 地図活用のポイント



- 1 地図帳に掲載された各地の産物記号やイラスト、史跡・名勝から、江戸時代に生まれた文化や産業・交通を想像することができる。
- 2 伊能忠敬の日本地図と地図帳を見比べる経験から、正確な地図が持つ価値や測量への興味を育み、学問を積む生き方の大切さに気付かせる。



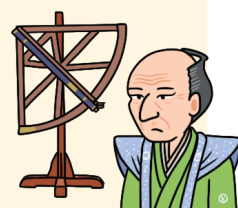
A ベにばな



B 菅谷たたら山内



たたら製鉄の高殿



C 八重山上布・宮古上布



図2 地図帳から読み解く江戸時代に流通した産物の例  
令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.34、39、76

3点目は、薩摩上布です。しかし、鹿児島県が載っている「九州地方」の頁でいくら文字や産物記号を探しても薩摩上布という織物は見つからないのです。実は、その正体は琉球で産した宮古上布と八重山上布（地図帳p.33～34〔p.31～32〕）だったのです（図2 C）。薩摩の琉球支配が見え隠れします。

このようにして、地図帳から見いだせるイラストや産物記号、史跡・名勝の記号から、江戸時代の文化と産業・交通の様子が想像できるのです。江戸時代の各地の文化や産業・交通の学習は、「位置や分布」をとらえた上で「空間的相互依存作用」（地図から複数の場所の結び付きを読み取り、人々の活動の様子と関連付けてとらえる力）を示し、現代まで続く地方の土地柄は「地域」といった基本概念を育みます。

### 3 伊能図と地図帳を見比べる経験が地図や測量への興味を育む

何とんでも正確な日本地図を完成させた伊能忠敬の功績は忘れることはできません。56歳を超えてから17年かけて蝦夷地から屋久島まで3万5,000kmもの距離を測量して歩いたのです。どうして伊能は正確な日本地図づくりに挑んだのか、自身の学問への興味に加え、海防の必要性や測量術の進歩という背景にも気付かせたいものです。教材としての伊能図は「古地図コレクション」のサイトで閲覧したり、オンラインショップなどで紙の複製地図（市販）で入手できます。特に中図とよばれる伊能図では海岸線や街道筋が詳しく読み解けます。伊能中図で自県がどのように描かれているか、地図帳と見比べるとその正確さに驚かされます。筆者は筑波大学附属小学校教諭であった頃、伊能忠敬の歩測に触発され、校庭に児童を連れ出し、簡単な測量により地図づくりを試みたことがあります。伊能の測量隊が掲げた御用の旗を示しつつ通学路や校庭を測量する真似も、よき経験になるでしょう。

#### 【参考文献】

寺本潔「児童の歩測による地図づくり」『新地理』第31巻第3号p.13～17 1983 日本地理教育学会  
古地図コレクション <https://kochizu.gsi.go.jp>



## スーパーマーケットの品物はどこから

### 品物の産地調べ

小学校3年社会科に品物の産地を調べる学習があります。学習指導要領では「販売の仕事」の学習に関して「他地域や外国との関わり」に着目するように示されています。スーパーマーケットや商店を見学する学習活動が位置づけられ、売られている品物の産地を調べます。見学のまとめをするときに日本地図や世界地図を活用します。子どもは、品物の産地を地図に表現する活動に取り組みます。

### 位置情報の獲得

子どもはスーパーマーケットや商店の見学でさまざまな商品の産地を調べます。例えば、バナナに、「フィリピン産と書いてある」ことを発見します。見学のときに、発見した情報を見学カードにメモするようにします。そして見学後の授業でこの情報をもとにさまざまな品物の産地を、地図を活用して表現します。

子どもは、例えばフィリピンという地名を見つけても、世界の中のどこにフィリピンがあるのか分からない場合が少なくありません。位置が分かるようにするために、地図帳の世界地図を活用し国や地域の場所を確かめる学習が非常に重要になります。**調べた事柄に位置情報を与えることが大切です。子どもが世界像を形成し、その中に地名を位置づけることが求められます。**

学習では、地名と商品名を書き入れるカードを用意し、調べたことをカードに書いて整理します。それをもとに世界の白地図に地名と品物を書き入れるようにします。

例えば、フィリピンの場所に国名とバナナ、チリの場所に国名とさけ、ニュージーランドの場所に国名とキウイフルーツと書き入れます。自分で調べた品物の産地を次々に書き入れていきます。

### 日本まで届けられるルート

世界地図に品物を書き入れたら、白地図上で品物の産地から日本まで、届けられるルートを考え、指でたどります。海上または陸上のルートを想定してたどるようにします。

さけの産地のチリから日本への海上のルートは、太平洋を進むことになります。どこの海を通るのか、またどこの国や地域の近くを通るのか言葉で表現します。例えば「太平洋を通ります」「赤道を通過します」などと言いながら地図を指でたどるようにします。

### 世界地図を身近に

世界地図に親しむことにより、世界の大まかな形をとらえることが重要です。地図帳の世界地図を開き、地名、大陸や国の形や位置を確かめながら地図の活動を進めます。地図の活動を通して、世界の中における日本および、さまざまな国や地域の位置が分かるようになります。子どもは、スーパーマーケットや商店では、お客さんによりよい品物を買ってもらうために、世界の各地から品物が届けられているという事実を具体的に実感できます。これは、お店の工夫を追究することに結び付きます。

日本地図についても世界地図と同様の学習活動が可能です。



地図にかいてみよう

品物の産地を調べよう！ 世界

年 組 番  
名前

①スーパーマーケットの品物の産地を調べ、□に書き入れましょう。

例 1

品物  
さけ  
産地  
チリ

例 2

品物  
バナナ  
産地  
フィリピン

品物  
産地

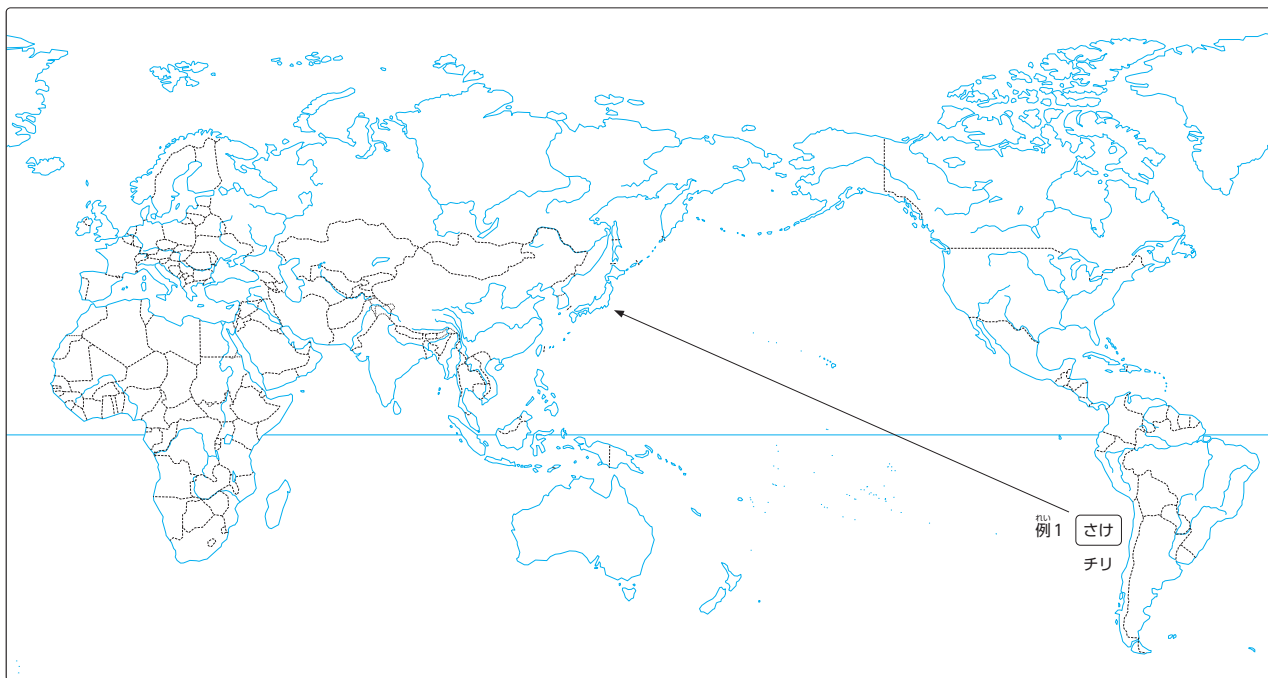
品物  
産地

品物  
産地

②世界地図の産地の場所に、地名と品物を書き入れましょう。

まず、例 1 にならって、例 2 をやってみましょう。

それから、自分で調べたものについて書き入れましょう。



③商品の産地の国や地域から日本までのルートを、指でなぞってみましょう。

④日本までのルートに、例 1 にならって線をかき入れましょう。

⑤ルートのとちゅうに通る海や国の名前を言ってみましょう。

チリから日本へのルートは、  
太平洋を進みます。  
赤道を通ります。



2024年10月作成

教授用資料 帝国書院

注目！

ワークシート「品物の産地を調べよう！世界」のA3判PDFデータを、  
帝国書院ウェブサイトに掲載しています。ぜひダウンロードしてご活用ください。



Webサイトは  
こちらから





# QRコンテンツ「47都道府県地図」を活用した「わたしたちの県」の学習の提案

～北海道札幌市を例に～

●北海道札幌市立東川下小学校 教諭 関本勝幸



## ① はじめに

今年度3年生になった児童に、令和6年度版の地図帳（『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）が配付されました。新しい地図帳の改訂の大きなポイントの一つは、先生方が利用でき、児童が学習において自由に閲覧することのできるデジタルコンテンツが充実したことです。地図帳に掲載されているQRコードを端末で読み取れば、600を超えるコンテンツにアクセスできます。また、47都道府県それぞれにさらに詳細な資料が用意されており、例えば「北海道」のコンテンツにアクセスすると、8つのテーマに基づいた地図が表示されます（図1）。本稿では、令和6年度版の地図帳を4年生の児童が活用する場面を想定して実際の単元や授業づくりについて考えてみたいと思います。

## ② 4年生の社会科の学習のスタートは

札幌市で採択している教科書を開いてみると、4年生の1は「県の地図を広げて」です。

- ・自分たちの都道府県の地図を眺め、気付いたこと、読み取ったことを話し合い、学習問題を設定
- ・土地の使われ方
- ・農業や漁業がさかんな地域
- ・工業がさかんな地域
- ・県の交通の様子
- ・学習のまとめとして、自分たちの住んでいる都道府県の地形、産業、交通を総合化してまとめる

という単元の学習の流れになっています。また、その学習の過程として絵地図や写真地図などさまざまな種類の地図に触れること、棒グラフなどの簡単な資料を読み取ること、等高線から土地の高

さを読み取ることなども取り上げられており、少ない時数の中でも知識・理解面でカバーしなければならない内容が多いといえます。

そのような中で、4年生の児童が自分たちの住む都道府県や市町村へと焦点化しながら、より身近に学習できるよう、教科書だけではなく、各自治体で「わたしたちの〇〇市」のような社会科副読本を監修・作成し、授業で活用している学校も多いと思います。そして、どの副読本も学習指導要領および教科書の内容をカバーし、補う内容になっていますから、先述のような学習の流れをそのままフォローすることになります。

いずれにしても、教科書や副読本だけで学習を進めようとする、地名、海、島、川や山脈、その場所や方角など、前段として覚えなければいけない基礎的な知識が多く、単調で暗記・定着を促すような授業展開になってしまいがちです。

そこで、地図帳と併せてデジタルコンテンツを活用した学習展開をご紹介したいと思います。

## ③ 地図を活用した「わたしたちの県」の学習

まず、児童と一緒に単元の課題づくりをしましょう。「3年生の社会では札幌市について学んだね。どのようなことを勉強したかな？」のように問いかけることで、児童からは「10の区がある」「人がたくさん住んでいるところと自然豊かなところがある」「製麺工場や牛乳をつくる工場がある」といった発言を集め、「玉ねぎや果樹園など農業がさかんな地域もある」「小樽へ続く札幌自動車道や旭川へ続く道央自動車道がある」などと整理します。土地利用や農業、漁業、工業、交通な



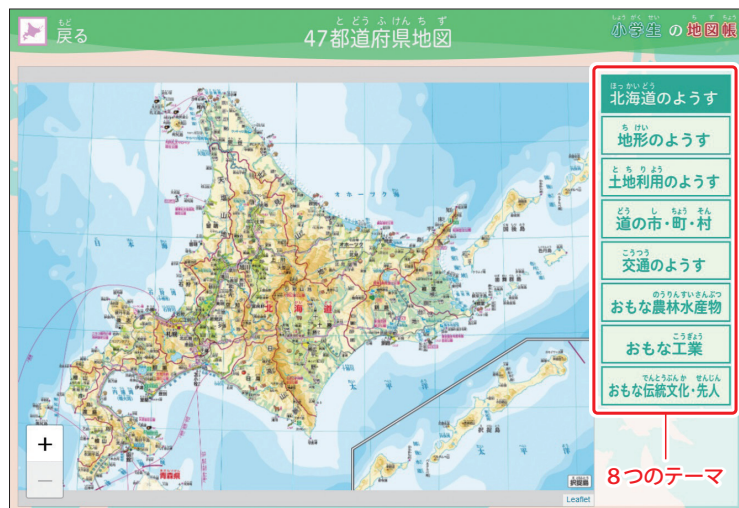


図1 QRコンテンツ「47都道府県地図」「北海道」

QRコンテンツはこちらから



どの要素をピックアップしておくとういでしょう。

黒板には北海道の白地図※を拡大して貼ります。そのうえで「4年生は学習がぐんと広がって、北海道全体を見ていくよ。どのようなことをみんなで調べたり考えたりしたいかな？」と投げかけます。フラットな思考で考えられるように、提示するのは白地図とするのがよいでしょう。

「札幌は10の区があったけど、北海道はいくつの市町村があるのかな？」や「高速道路はどこにあるのだろう？」「有名な場所は？」など、大きなもの、細かなもの、いろいろな疑問が出ますが、それらを一人一人短冊に書き黒板に貼っていきます。児童と「どのように分類できるかな？」と話し合いながら土地利用、農業や漁業、工業、交通と項目別に分け、「北海道についてのみんなの疑問を解決していこう！」とまとめ、導入の1時間とします。

次時以降は各項目について学習していきますが、次項ではその代表例として土地利用の学習の場面を紹介します。

#### ④ デジタルコンテンツを生かした学習展開を

児童に地図帳p.77「①北海道地方」を開かせます。そして左上に記載されているQRコードを読み取らせ、「47都道府県地図」の「北海道」へ進むと、北海道の地図が出てきます（図1）。右側のツールバーには「地形のようす」「土地利用のよ

※白地図は帝国書院のウェブサイトからダウンロード、印刷できます。

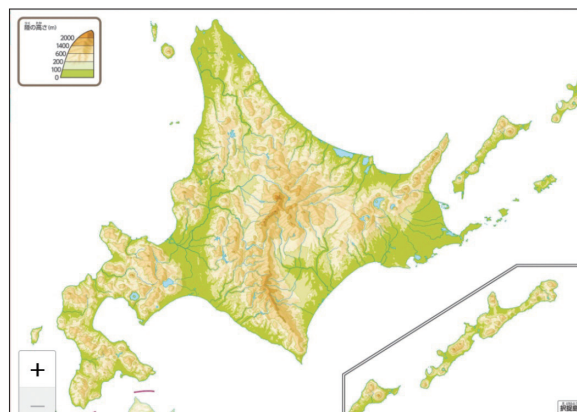


図2 QRコンテンツ「地形のようす」

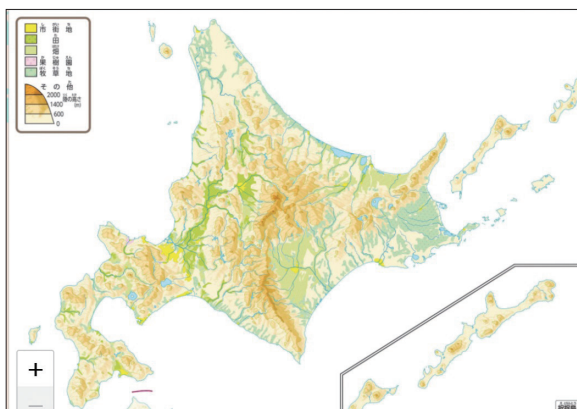


図3 QRコンテンツ「土地利用のようす」

うす」などの項目が並んでいます。このコンテンツのよいところはおもに3つあります。

- どの項目で見ても基本としている地図が全く同じ
- 拡大と縮小が児童の手元で簡単にできる
- クリックしたり二つの地図を並べたりすることで、地図を見比べ、地形と産業など複数の項目を関連付けながら話し合うことが容易にできる

児童の机上には地図帳とタブレット端末（デジタルコンテンツ）を並置できるので、毎時間都道府県の地図を印刷し、ワークシートを作成して児童に配付する必要もありません。

ここからは、「地形のようす」と「土地利用のようす」を見比べながら北海道の土地利用の特色を考えてみましょう（図2 図3）。

「市街地」、「田」や「畑」、「果樹園」や「牧草地」人間が活動できるフィールドはおおむね緑で、茶色のところは土地利用が難しいと気付くことができます。地図の比較から分かったことを板書に整理し、「人間が生活したり作物をつくったりすることができるのは平野や盆地が多いね」とまとめ



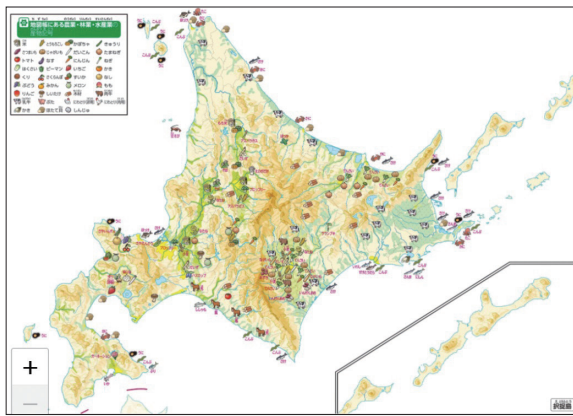


図4 QRコンテンツ「おもな農林水産物」

ます。石狩平野には石狩川、十勝平野には十勝川と、主要な平野には大きな川が流れていることや、人口の多い大きな市は平野や盆地にあること、平野は海に面していることに気付く児童がいるかもしれません。児童の声を生かして、まとめの際に「平野や盆地ではどのような野菜をつくっているの?」「海に面しているまちではどのような魚がとれているの?」などに触れておくと、次時へのつながりが見えます。

1時間の学習を振り返り、確かめる場として、地図帳やデジタルコンテンツを参照しながら北海道のおもな地形の名前を復習するとよいでしょう。タブレット端末や地図帳を持ち帰らせ、自主学習の課題とすることも効果的です。

## 5 地図を活用して、学びをアップデート!

地形と土地利用の関連が見えてきたら、次の時間は農業や漁業との関連です。デジタルコンテンツ「おもな農林水産物」を参照してみましょう(図4)。「さあ、北海道ではどのようなものが生産されているかな?」児童の関心をもとに「野菜チーム」「果物チーム」「漁業チーム」に分けて、デジタルコンテンツと地図帳と、併せて調べていきます。

生産されている場所も一緒に地図で確かめられますので、農業については「やっぱり平野や盆地での生産がほとんどだ」といえるでしょうし、果樹は山間部のふもと、当然ですが漁業は港町に、それぞれ地図記号があることが見えてきます。地図帳では、巻末の都道府県の統計資料も参考にな



図5 エスコンフィールド北海道  
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.79

ります。

土地利用を考える中で地形が大きく影響していることを農業や漁業を通して確かめていくと、その事実に深まりが生まれます。学習を積み重ねながら、児童の地図の中の情報がより豊かになり、そしてそれぞれの項目が関連付けられていく、地図がアップデートされるイメージで学習を進められたらと思います。

この後に工場の分布、主要な国道・道道(県道)・そして高速道路をこれまでの地図に重ねて見ると、大都市間の人の移動、物流がはっきり見えてくるはずです。鉄道や空港と関連付けると、北海道の産業やインフラの全体像が、4年生ながらにつかめてくるのではないのでしょうか。

最後に、令和5年に開業した北海道日本ハムファイターズのホーム球場、「エスコンフィールド北海道」を確認してはどうでしょうか(図5)。地図を見ると鉄道、高速道路、空港とアクセスのよさがはっきり見えます。野球を見に来る人、プレイする選手の利便性に気付く児童もいるかもしれません。

## 6 ページをめくりながら、画面を見ながら～おわりにかえて

今回は地図帳とデジタルコンテンツを併用した学習を提案いたしました。学習に際しては、児童の一人1台端末でできるように、各都道府県で整備されているさまざまなアプリケーションも活用するとよいと思います。手元の地図を見て、話し合い、考える中で、それまで見えなかった関連やつながりが見えてくる、そんな学習を目指しましょう!







# 祝 放鳥15周年！ 世界の国とトキの意外な関係？

●新潟県佐渡市立行谷小学校 教頭 猪股快門



授業の様子

## ① はじめに

私は、昨年度新潟県佐渡市にある行谷小学校に赴任しました。校区には、たくさんの観光客や修学旅行生が訪れる「トキの森公園」や環境省の自然保護官事務所、トキの「野生復帰ステーション」など、官公庁のトキ施設が多く立地しています。トキで有名な佐渡島の中でも、「行谷小といったらトキの学校」とよばれるほど、トキと行谷小学校の関わりは深いのです。本校の児童は「日本一のトキの学校」を目指し、日々努力しています。そのような「日本一のトキの学校」で実践したおもしろい授業を紹介します。



図1 佐渡島 令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.62

## ② モニタリングチームの方から…

佐渡には、ボランティアでトキの行動を観察するモニタリングチームがあります。そのモニタリングチームの方から「トキ個体識別表」(図2)を見せていただきました。佐渡を飛ぶ多くのトキには表のような足環(カラーリングとナンバーリング)が付けられています。このリングをもとにどのトキがいつねぐらを出発し、どこで餌を食べていたか、どこに飛来していついるかを調査できるのです。佐渡では、トキたちが餌をとって

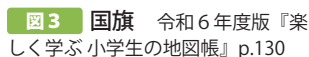
### トキ個体識別表

新穂・両津・金井周辺グループ

#106 009 2006年 5月	#107 005 2006年 5月	#108 006 2006年 5月	#109 007 2006年 5月	#110 008 2006年 5月	#111 009 2006年 5月	#112 010 2006年 5月	#113 011 2006年 5月	#114 012 2006年 5月	#115 013 2006年 5月	#116 014 2006年 5月	#117 015 2006年 5月	#118 016 2006年 5月	#119 017 2006年 5月	#120 018 2006年 5月	#121 019 2006年 5月	#122 020 2006年 5月	#123 021 2006年 5月	#124 022 2006年 5月	#125 023 2006年 5月	#126 024 2006年 5月	#127 025 2006年 5月	#128 026 2006年 5月	#129 027 2006年 5月	#130 028 2006年 5月	#131 029 2006年 5月	#132 030 2006年 5月	#133 031 2006年 5月	#134 032 2006年 5月	#135 033 2006年 5月	#136 034 2006年 5月	#137 035 2006年 5月	#138 036 2006年 5月	#139 037 2006年 5月	#140 038 2006年 5月	#141 039 2006年 5月	#142 040 2006年 5月	#143 041 2006年 5月	#144 042 2006年 5月	#145 043 2006年 5月	#146 044 2006年 5月	#147 045 2006年 5月	#148 046 2006年 5月	#149 047 2006年 5月	#150 048 2006年 5月	#151 049 2006年 5月	#152 050 2006年 5月	#153 051 2006年 5月	#154 052 2006年 5月	#155 053 2006年 5月	#156 054 2006年 5月	#157 055 2006年 5月	#158 056 2006年 5月	#159 057 2006年 5月	#160 058 2006年 5月	#161 059 2006年 5月	#162 060 2006年 5月	#163 061 2006年 5月	#164 062 2006年 5月	#165 063 2006年 5月	#166 064 2006年 5月	#167 065 2006年 5月	#168 066 2006年 5月	#169 067 2006年 5月	#170 068 2006年 5月	#171 069 2006年 5月	#172 070 2006年 5月	#173 071 2006年 5月	#174 072 2006年 5月	#175 073 2006年 5月	#176 074 2006年 5月	#177 075 2006年 5月	#178 076 2006年 5月	#179 077 2006年 5月	#180 078 2006年 5月	#181 079 2006年 5月	#182 080 2006年 5月	#183 081 2006年 5月	#184 082 2006年 5月	#185 083 2006年 5月	#186 084 2006年 5月	#187 085 2006年 5月	#188 086 2006年 5月	#189 087 2006年 5月	#190 088 2006年 5月	#191 089 2006年 5月	#192 090 2006年 5月	#193 091 2006年 5月	#194 092 2006年 5月	#195 093 2006年 5月	#196 094 2006年 5月	#197 095 2006年 5月	#198 096 2006年 5月	#199 097 2006年 5月	#200 098 2006年 5月	#201 099 2006年 5月	#202 100 2006年 5月	#203 101 2006年 5月	#204 102 2006年 5月	#205 103 2006年 5月	#206 104 2006年 5月	#207 105 2006年 5月	#208 106 2006年 5月	#209 107 2006年 5月	#210 108 2006年 5月	#211 109 2006年 5月	#212 110 2006年 5月	#213 111 2006年 5月	#214 112 2006年 5月	#215 113 2006年 5月	#216 114 2006年 5月	#217 115 2006年 5月	#218 116 2006年 5月	#219 117 2006年 5月	#220 118 2006年 5月	#221 119 2006年 5月	#222 120 2006年 5月	#223 121 2006年 5月	#224 122 2006年 5月	#225 123 2006年 5月	#226 124 2006年 5月	#227 125 2006年 5月	#228 126 2006年 5月	#229 127 2006年 5月	#230 128 2006年 5月	#231 129 2006年 5月	#232 130 2006年 5月	#233 131 2006年 5月	#234 132 2006年 5月	#235 133 2006年 5月	#236 134 2006年 5月	#237 135 2006年 5月	#238 136 2006年 5月	#239 137 2006年 5月	#240 138 2006年 5月	#241 139 2006年 5月	#242 140 2006年 5月	#243 141 2006年 5月	#244 142 2006年 5月	#245 143 2006年 5月	#246 144 2006年 5月	#247 145 2006年 5月	#248 146 2006年 5月	#249 147 2006年 5月	#250 148 2006年 5月	#251 149 2006年 5月	#252 150 2006年 5月	#253 151 2006年 5月	#254 152 2006年 5月	#255 153 2006年 5月	#256 154 2006年 5月	#257 155 2006年 5月	#258 156 2006年 5月	#259 157 2006年 5月	#260 158 2006年 5月	#261 159 2006年 5月	#262 160 2006年 5月	#263 161 2006年 5月	#264 162 2006年 5月	#265 163 2006年 5月	#266 164 2006年 5月	#267 165 2006年 5月	#268 166 2006年 5月	#269 167 2006年 5月	#270 168 2006年 5月	#271 169 2006年 5月	#272 170 2006年 5月	#273 171 2006年 5月	#274 172 2006年 5月	#275 173 2006年 5月	#276 174 2006年 5月	#277 175 2006年 5月	#278 176 2006年 5月	#279 177 2006年 5月	#280 178 2006年 5月	#281 179 2006年 5月	#282 180 2006年 5月	#283 181 2006年 5月	#284 182 2006年 5月	#285 183 2006年 5月	#286 184 2006年 5月	#287 185 2006年 5月	#288 186 2006年 5月	#289 187 2006年 5月	#290 188 2006年 5月	#291 189 2006年 5月	#292 190 2006年 5月	#293 191 2006年 5月	#294 192 2006年 5月	#295 193 2006年 5月	#296 194 2006年 5月	#297 195 2006年 5月	#298 196 2006年 5月	#299 197 2006年 5月	#300 198 2006年 5月	#301 199 2006年 5月	#302 200 2006年 5月	#303 201 2006年 5月	#304 202 2006年 5月	#305 203 2006年 5月	#306 204 2006年 5月	#307 205 2006年 5月	#308 206 2006年 5月	#309 207 2006年 5月	#310 208 2006年 5月	#311 209 2006年 5月	#312 210 2006年 5月	#313 211 2006年 5月	#314 212 2006年 5月	#315 213 2006年 5月	#316 214 2006年 5月	#317 215 2006年 5月	#318 216 2006年 5月	#319 217 2006年 5月	#320 218 2006年 5月	#321 219 2006年 5月	#322 220 2006年 5月	#323 221 2006年 5月	#324 222 2006年 5月	#325 223 2006年 5月	#326 224 2006年 5月	#327 225 2006年 5月	#328 226 2006年 5月	#329 227 2006年 5月	#330 228 2006年 5月	#331 229 2006年 5月	#332 230 2006年 5月	#333 231 2006年 5月	#334 232 2006年 5月	#335 233 2006年 5月	#336 234 2006年 5月	#337 235 2006年 5月	#338 236 2006年 5月	#339 237 2006年 5月	#340 238 2006年 5月	#341 239 2006年 5月	#342 240 2006年 5月	#343 241 2006年 5月	#344 242 2006年 5月	#345 243 2006年 5月	#346 244 2006年 5月	#347 245 2006年 5月	#348 246 2006年 5月	#349 247 2006年 5月	#350 248 2006年 5月	#351 249 2006年 5月	#352 250 2006年 5月	#353 251 2006年 5月	#354 252 2006年 5月	#355 253 2006年 5月	#356 254 2006年 5月	#357 255 2006年 5月	#358 256 2006年 5月	#359 257 2006年 5月	#360 258 2006年 5月	#361 259 2006年 5月	#362 260 2006年 5月	#363 261 2006年 5月	#364 262 2006年 5月	#365 263 2006年 5月	#366 264 2006年 5月	#367 265 2006年 5月	#368 266 2006年 5月	#369 267 2006年 5月	#370 268 2006年 5月	#371 269 2006年 5月	#372 270 2006年 5月	#373 271 2006年 5月	#374 272 2006年 5月	#375 273 2006年 5月	#376 274 2006年 5月	#377 275 2006年 5月	#378 276 2006年 5月	#379 277 2006年 5月	#380 278 2006年 5月	#381 279 2006年 5月	#382 280 2006年 5月	#383 281 2006年 5月	#384 282 2006年 5月	#385 283 2006年 5月	#386 284 2006年 5月	#387 285 2006年 5月	#388 286 2006年 5月	#389 287 2006年 5月	#390 288 2006年 5月	#391 289 2006年 5月	#392 290 2006年 5月	#393 291 2006年 5月	#394 292 2006年 5月	#395 293 2006年 5月	#396 294 2006年 5月	#397 295 2006年 5月	#398 296 2006年 5月	#399 297 2006年 5月	#400 298 2006年 5月	#401 299 2006年 5月	#402 300 2006年 5月	#403 301 2006年 5月	#404 302 2006年 5月	#405 303 2006年 5月	#406 304 2006年 5月	#407 305 2006年 5月	#408 306 2006年 5月	#409 307 2006年 5月	#410 308 2006年 5月	#411 309 2006年 5月	#412 310 2006年 5月	#413 311 2006年 5月	#414 312 2006年 5月	#415 313 2006年 5月	#416 314 2006年 5月	#417 315 2006年 5月	#418 316 2006年 5月	#419 317 2006年 5月	#420 318 2006年 5月	#421 319 2006年 5月	#422 320 2006年 5月	#423 321 2006年 5月	#424 322 2006年 5月	#425 323 2006年 5月	#426 324 2006年 5月	#427 325 2006年 5月	#428 326 2006年 5月	#429 327 2006年 5月	#430 328 2006年 5月	#431 329 2006年 5月	#432 330 2006年 5月	#433 331 2006年 5月	#434 332 2006年 5月	#435 333 2006年 5月	#436 334 2006年 5月	#437 335 2006年 5月	#438 336 2006年 5月	#439 337 2006年 5月	#440 338 2006年 5月	#441 339 2006年 5月	#442 340 2006年 5月	#443 341 2006年 5月	#444 342 2006年 5月	#445 343 2006年 5月	#446 344 2006年 5月	#447 345 2006年 5月	#448 346 2006年 5月	#449 347 2006年 5月	#450 348 2006年 5月	#451 349 2006年 5月	#452 350 2006年 5月	#453 351 2006年 5月	#454 352 2006年 5月	#455 353 2006年 5月	#456 354 2006年 5月	#457 355 2006年 5月	#458 356 2006年 5月	#459 357 2006年 5月	#460 358 2006年 5月	#461 359 2006年 5月	#462 360 2006年 5月	#463 361 2006年 5月	#464 362 2006年 5月	#465 363 2006年 5月	#466 364 2006年 5月	#467 365 2006年 5月	#468 366 2006年 5月	#469 367 2006年 5月	#470 368 2006年 5月	#471 369 2006年 5月	#472 370 2006年 5月	#473 371 2006年 5月	#474 372 2006年 5月	#475 373 2006年 5月	#476 374 2006年 5月	#477 375 2006年 5月	#478 376 2006年 5月	#479 377 2006年 5月	#480 378 2006年 5月	#481 379 2006年 5月	#482 380 2006年 5月	#483 381 2006年 5月	#484 382 2006年 5月	#485 383 2006年 5月	#486 384 2006年 5月	#487 385 2006年 5月	#488 386 2006年 5月	#489 387 2006年 5月	#490 388 2006年 5月	#491 389 2006年 5月	#492 390 2006年 5月	#493 391 2006年 5月	#494 392 2006年 5月	#495 393 2006年 5月	#496 394 2006年 5月	#497 395 2006年 5月	#498 396 2006年 5月	#499 397 2006年 5月	#500 398 2006年 5月	#501 399 2006年 5月	#502 400 2006年 5月	#503 401 2006年 5月	#504 402 2006年 5月	#505 403 2006年 5月	#506 404 2006年 5月	#507 405 2006年 5月	#508 406 2006年 5月	#509 407 2006年 5月	#510 408 2006年 5月	#511 409 2006年 5月	#512 410 2006年 5月	#513 411 2006年 5月	#514 412 2006年 5月	#515 413 2006年 5月	#516 414 2006年 5月	#517 415 2006年 5月	#518 416 2006年 5月	#519 417 2006年 5月	#520 418 2006年 5月	#521 419 2006年 5月	#522 420 2006年 5月	#523 421 2006年 5月	#524 422 2006年 5月	#525 423 2006年 5月	#526 424 2006年 5月	#527 425 2006年 5月	#528 426 2006年 5月	#529 427 2006年 5月	#530 428 2006年 5月	#531 429 2006年 5月	#532 430 2006年 5月	#533 431 2006年 5月	#534 432 2006年 5月	#535 433 2006年 5月	#536 434 2006年 5月	#537 435 2006年 5月	#538 436 2006年 5月	#539 437 2006年 5月	#540 438 2006年 5月	#541 439 2006年 5月	#542 440 2006年 5月	#543 441 2006年 5月	#544 442 2006年 5月	#545 443 2006年 5月	#546 444 2006年 5月	#547 445 2006年 5月	#548 446 2006年 5月	#549 447 2006年 5月	#550 448 2006年 5月	#551 449 2006年 5月	#552 450 2006年 5月	#553 451 2006年 5月	#554 452 2006年 5月	#555 453 2006年 5月	#556 454 2006年 5月	#557 455 2006年 5月	#558 456 2006年 5月	#559 457 2006年 5月	#560 458 2006年 5月	#561 459 2006年 5月	#562 460 2006年 5月	#563 461 2006年 5月	#564 462 2006年 5月	#565 463 2006年 5月	#566 464 2006年 5月	#567 465 2006年 5月	#568 466 2006年 5月	#569 467 2006年 5月	#570 468 2006年 5月	#571 469 2006年 5月	#572 470 2006年 5月	#573 471 2006年 5月	#574 472 2006年 5月	#575 473 2006年 5月	#576 474 2006年 5月	#577 475 2006年 5月	#578 476 2006年 5月	#579 477 2006年 5月	#580 478 2006年 5月	#581 479 2006年 5月	#582 480 2006年 5月	#583 481 2006年 5月	#584 482 2006年 5月	#585 483 2006年 5月	#586 484 2006年 5月	#587 485 2006年 5月	#588 486 2006年 5月	#589 487 2006年 5月	#590 488 2006年 5月	#591 489 2006年 5月	#592 490 2006年 5月	#593 491 2006年 5月	#594 492 2006年 5月	#595 493 2006年 5月	#596 494 2006年 5月	#597 495 2006年 5月	#598 496 2006年 5月	#599 497 2006年 5月	#600 498 2006年 5月	#601 499 2006年 5月	#602
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------



私がモニタリングに  
同行した際に「あ、カ  
ラーリングは、赤、白、  
青。番号は348フラン  
スの国旗ですね！」と  
思わず言ってしまいま  
した。なんと、トキの  
足環のカラーリングが  
国旗と同じ配色になっ  
ているのです。トキが  
いろいろな国の国旗を



### ③ 実際の授業の様子

授業の流れとしては、まず、①世界の国の数を  
問いました。意外にも、児童は世界に200近い国  
があることを知りません。地図帳（令和6年度版  
『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）p.130～132  
〈p.118～120〉を開いて、日本が国として認定  
している国は、197か国あることを確認しました。

次に、②ゲーム的な時間の設定をしました。勤務校は、高学年複式（A・B年度方式：例えば、5・6年生2学年が混ざるクラスであっても、同時に同じ内容を学ぶ形式。つまり、5年生であっても6年生の内容を学ぶということが生じ、5年生にとっては、1年早く6年生の内容を学び2年間で学習内容を網羅する方式）で授業を行っています。ゲーム形式で行えば、学年を意識せず授業を楽しんでもらえます。今回は、5年生 vs 6年生という学年対抗の2チームに行いました。1つのチームに1つのホワイトボードを渡し、知っている国を地図帳や教科書などを見ないで、学年のみみんなで協力し、制限時間2分で書けるだけ書いてもらいました。それを最後に全体で発表して確認するという形式で行いました。

勝負の結果、14 対 17で6年生の勝利でした（5年生は9人、6年生は6人）。たくさん書いてあっても、「アジア」と書いてしまったり、「グリーンランド」と記入したりするチームがありました。地図帳p.130～132では国名が赤文字で表記されているのに対し、グリーンランドは黒文字になっていることや【デンマーク】と下に書いてあることを確認しました（図4）。

そして、いよいよ③「トキ個体識別表」の登場となります。おもむろに児童に配ると、「これ、トキの足環のやつだ。前に、もらったことある！」などという声が聞かれました。

「この表を見るとなんだか、国旗に見えるものがないかな？」と発問すると「あー！イタリア！」などと児童。では、他にどのような国があるか地図帳で探してみようということになりました。地





図5 ウクライナ  
令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.90

図帳と識別表をにらめっこしながら国旗と同じものを児童は探し始めました。児童が気付けた国旗は、イタリア・ギニア・ナイジェリア・インドネシア・ポーランド・ハンガリーなどです。私が児童に「みんながほぼ毎日、耳にする国の国旗がまだ出てきてないよ」と言うと「ウクライナ!」という声も上がってきました。実は、識別表の中でウクライナの国旗デザインのカラーリングがたくさん出てくるのです。地図帳p.90〈p.82〉をあげ、ウクライナの位置を確認すると、「首都は、テレビで聞くキーウだ。ひまわりをたくさん生産している国なんだな」とつぶやく児童もいました（図5）。児童は、地図帳を見ながら、大変集中して活動に取り組み、位置を確認しながら国への理解を進めていったようでした。

最後に、④国旗の意味と国旗を尊重することの大切さについて語りました。トキの足環の色は、個体を識別する意味で取り付けられています。しかし、国旗の色やデザインには、単に識別のためだけでなく意味があります。ウクライナ国旗であれば「青は空、黄色は小麦畑」を表すことを話しました（図6）。また、赤い色が使われる国の中には、「血」を表すこともあると話すと、驚く児童がたくさんいました。

私は、国旗にはそれぞれにその国の自然、歴史、宗教などと関係する絵柄があったり、自由や平和といったその国で暮らす人々の思いや意味が深く込められていることを語りました。そして、児童に「外国の人が深い思いや意味がある国旗を大事

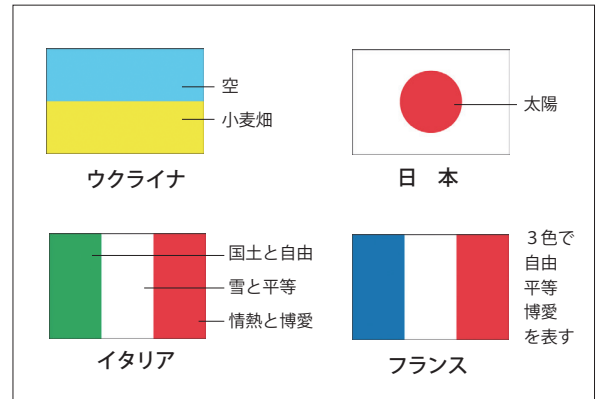


図6 国旗の表す意味の例

にしていない姿を見たらどう思うか」と問いました。「その国の国民がすごく悲しむ。だから、国旗を大切に扱わなければいけない」と児童は気付いたようでした。その後、卒業式などの式典で登場する日本の国旗「日の丸」への見方も変わったように感じました。

#### ④ 国旗を身近に…

ウクライナ、フランス、世界中のいろいろな国の国旗をつけたトキが佐渡の美しい空には羽ばたいています。まるでトキがそれぞれの国を応援して飛んでいるかのようです。

この夏、パリ2024オリンピック・パラリンピックが開催されました。開会式等でそれぞれの国の国旗がたなびく様子は、児童の記憶に新しいことでしょう。

書店に行くと子ども向けの国旗の本が多数あることが分かります。また、児童の自主学習帳を見ると、国旗調べに取り組む児童が大変多いです。国旗は児童の心をつかむ存在です。これからも国旗を身近な題材として扱いながら、国の学習に興味を持ってもらえるように授業づくりをしていきたいと思っています。

2024年がトキ放鳥30回目の記念の年です。いつまでも多くのトキが日本の空を元気に羽ばたいて欲しいと願っています。





授業で！

デジタル地図帳を活用しよう！

## 192Cafe × デジタル地図帳 コラボイベントが開催されました！



2024年8月東京で開催された「192Cafe meet デジタル地図帳」は、  
デジタル地図帳を活用した授業アイデアを考え共有するイベント。

私立・公立小学校から参加した約30名の先生が教材研究をし、それを経て生まれた授業アイデアを  
グループで話し合い、発表、共有しました。すぐに実践できそうな活用術から改善のアイデアまで、  
ICT教育や地図教育への熱い思いで先生どうしがつながる1日となりました。

### 192Cafeとは？

私立小学校の先生たちを中心としたコミュニティ。「教育×ICT」をテーマに、学校、教科間の壁を越えて「未来の学び」について考える情報共有の場として、さまざまなイベントやセミナー、研究会などを開催しています。

### まずは使ってみよう！

いろんな機能を試して、  
いじり倒してみてくださいね！



「たくさん使ってみて、周りに広めてほしい」という192Cafe事務所の  
為田さん（写真中央上）の呼びかけで、まずは教材研究から。



先生それぞれの視点や授業環境  
から生まれたアイデアを話し合  
うグループディスカッション。



使い方や機能を帝国書院スタッフが  
しっかりサポート！

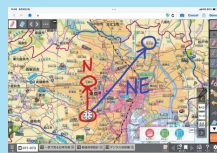
### デジタル地図帳、ここがいい！ここが惜しい！

リアルタイムでの投稿内容には、  
続々と、ほかの先生から  
「いいね」やコメントで反応が！

掲示板アプリ（Padlet）を使って、授業アイ  
デアをブルー、イチオシ機能をイエロー、改善の  
要望をレッドで共有しました。



【英語の授業】単元:Which  
way is north?



学校から自分の家の最寄駅やランド  
マークはどの方位にあるかを調べる、

♡ 1 ○ 0  
コメントを追加



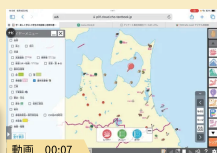
雨温図クイズ大会  
はじめに先生からのクイズ（モデルク  
イズ）をやったあと、子供達がクイズ  
を作ってクイズ大会をする。難しいか  
らヒントカードも作る。

雨温図を並べられるのは2つ  
だけ？！  
雨温図を並べるとわかりやすかったで  
す！4, 5枚並べられると各地方の雨温  
図を並べてみたい。

♡ 1 ○ 1  
匿名 同感です！  
コメントを追加

統計  
統計のソートとして、地方ごとにソート  
できるといいかもです。  
例えば、人口の上位順を東北地方に  
絞って表示...など  
♡ 0 ○ 1  
匿名 過去年度の統計資料の比較  
コメントを追加

#### 地図から資料に



動画 00:07  
RPRplay\_Final1723093787  
ピンを押すと資料に

♡ 1 ○ 0  
コメントを追加

統計×土地活用  
統計地図と土地活用の様子をレイヤー  
で重ねる  
♡ 0 ○ 1  
匿名 米の生産が多い地域を土地利用図や  
降水量の図と比べるなど...

#### 距離計測の方法が多い！

歩いたら...とか、新幹線なら...とか、  
選択肢が多く思考の幅が広がる

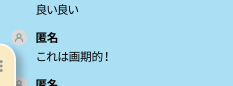
♡ 1 ○ 2  
匿名 なぞりながら測れるのが良いですね  
匿名 飛行機もあるといいなと思いました。

#### なぞって計測の時間モード

飛脚の時速10kmが速すぎ、、時速  
3-5kmで普通に歩くのとどのくらいかか  
るのか知りたい  
♡ 0 ○ 0  
コメントを追加

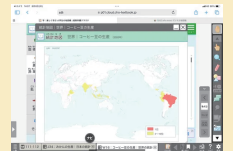
雨温図を使って、二つの都市を比較し  
た授業。また、重ねるのも面白いと思  
いました。

♡ 3 ○ 3  
匿名 良い良い  
匿名 これは画期的！  
匿名



月毎のデータも出ました。  
これは素晴らしい！

統計データ→その国の場所ま  
でわかる



ボタン1つで地図まで飛べるのが良い



## グループディスカッションで成果を共有！

先生それぞれの授業アイデアとして共有された内容は、「レイヤー切り替え」「距離計測」「統計資料」の3つの機能に集約されました。それぞれのテーマでグループになり、意見やアイデアをまとめて発表しました。

### Group 1

#### レイヤー切り替え

情報を絞ることで、子どもたちに分かりやすく伝えられる。

●レイヤー表示の選択で情報が絞れる。授業で子どもたちに学んでほしい情報に効果的にアクセスできて、先生も準備が楽になる。

●国土地理院の地理院地図と連動できる機能があると便利かもしれない。



#### 帝国書院より

ピンチインしていくと自動的にWebの地図に切り替わったり、ピンチアウトすると帝国書院の地図に戻ったりできると防災や身近な地域の学習につながるので、今後、身近な地域の地図との連携はしっかりやりたいですね。



### Group 2

#### 距離計測

身の回りに結び付けて距離感をつかみやすい。

●同心円を使うことで100km圏などの距離感をつかめる。

●国語の授業で手こぎ船で移動する場面が出てきたときに、デジタル地図帳を活用すれば、手こぎ船で「おばあちゃんの家までいける距離だね」などと実際の距離に結び付けて考えられる。



#### 帝国書院より

他教科との連携を意識しているので、同心円や自由曲線の距離計測などの機能が増えました。やはり24時間でどこまで歩けるか、というような距離感がつかめることは大事にしています。



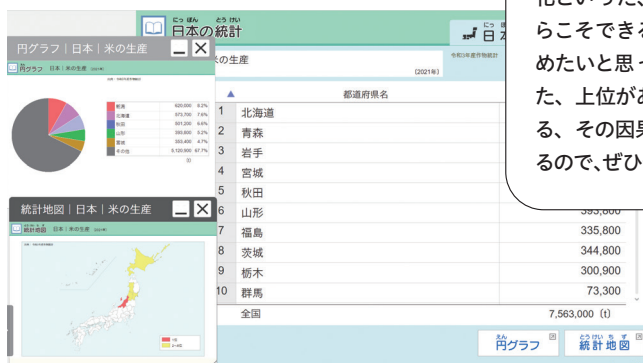
### Group 3

#### 統計資料

統計地図やランキングで瞬時に比較化・視覚化。

●統計資料から自動的に作れるものには統計地図と円グラフの2種類があり使いやすい。さらにレイヤー切り替えで自然や土地利用を確認すれば、その原因や要因を考えることができる。

●色分けされた地図でランキングが瞬時に見える化できる。上位10位と下位10位の両方を各地図で表示できるという。



#### 帝国書院より

統計情報の地図化、グラフ化といった、デジタルだからこそできることは突きつめたいと思っています。また、上位があれば下位があるので、ぜひやりたいですね。





## 参加した先生に感想を聞きました

### 「雨温図が楽しい！ 4年生の算数でも使えそうです」

日本女子大学附属豊明小学校 齋藤華子先生



棒グラフと折れ線グラフを学習する4年生の算数でも雨温図を使えるかなと思いました。6年生になっても、江戸時代の参勤交代のルートなどを距離計測を活用して調べさせたいですね。

### 「機能がたくさんあって いろいろできるんだなって」

横浜市立西柴小学校 植野鐘太先生



デジタル地図帳は初期設定していても使っていなかったので、このように多くの機能があって、いろいろできると体験できたことは大きかったです。さまざまな場面で使っていきたいです。

### 「選ぶことができるのは すごく素晴らしいと思います」

練馬区立大泉第四小学校 内海孝亮先生



表示するレイヤーを一から選べるなど、子どもたちに選択権がある。子どもたち自身で選択して学びを決めていくというのに有効活用できるなと思いました。

### 「届けたい情報を 効果的・効率的に渡せそうですね」

戸田市立芦原小学校 若林広泰先生



レイヤー機能は先生が届けたい情報を効率的に伝えられるし、子どもたち自身が表示する要素を自由に選定することもできる。効果的に使えそうですね。

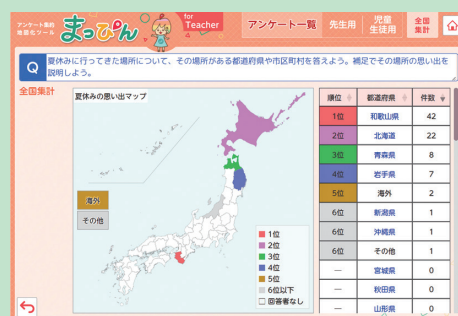
192Cafe事務局より

## 子どもの意欲や関心を引き出すデジタル地図帳



為田裕行氏  
192Cafe事務局/  
フューチャーインスティテュート  
株式会社 代表取締役

デジタル地図帳は、紙の地図帳がただデジタル表示されたものと思う方が多いんですが、情報量を子どもの理解や発達段階に応じてコントロールしたり、アンケートをとって子どもたちの回答を地図やランキングに反映するツールがあったり、学校現場で使うことに特化して作られています。学校によって、子どもたちの様子も学力も必要な授業も違う。だからこそ同じ機能でも、どういうふうにどのような目的で使うのか、先生一人一人が子どもたちの反応を見ながら有機的に活用できるものだと思います。ぜひ、自分の学校や周りの先生、ひいては保護者にも広めていただきたいと思います。



アンケート集約地図化ツール まっぴん

「192Cafe meet デジタル地図帳」のイベントの様子は  
Webサイトでも詳しく紹介しています。  
右のQRコードからアクセスください。

令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳 指導書 指導者用デジタル教科書(教材)』が、お手元にある方は、ぜひ一度使ってみてください。

Webサイト



指導者用  
デジタル教科書





『世界がひろがる! こどもと地図』にぴったりの作品展をご紹介します!

# バーバラ・ペチュニク子供地図展 作品募集

バーバラ・ペチュニク子供地図展 (Barbara Petchenik Children's Map Competition) は、ICA (国際地図学協会) の元副会長で、生涯を子供の地図のことに捧げたバーバラ・ペチュニク女史を記念して行われる子供の地図絵画のコンテストです。2年に1度開かれるICC (国際地図学会議) の行事の一つになっており、今回は2025年8月にカナダのバンクーバーで開催されます。日本国内でも2025年1月31日 (金) まで、作品を募集しています。入賞作品は、カナダのバンクーバーでの展覧会で展示されます。「バーバラ・ペチュニク子供地図展作品募集」の要項にしたがって、ふるってご応募ください。

## 何歳の子供が応募できますか?

- 15歳以下ならだれでも応募できます。6歳未満部門、6～8歳部門、9～12歳部門、13～15歳部門の4部門があります。

## 「地図絵画」ってどのような絵ですか?

- 世界全部か世界の大陸の大部分の地図が含まれている絵画 (半分程度では不可)。地図というより、世界地図や地球が描かれている絵画と考えていただいてもかまいません。

毎回テーマがあり、2025年のテーマは「ふだんの生活の中の地図 (Maps in everyday life)」です。

過去の入賞作品が右のQRコードから見るができますので、参考にしてください。

<https://icaci.org/petchenik/>



## くわしい応募方法を教えて?

- 大きさ・画材・応募方法・選考基準・作品の送付先など、くわしくは、日本地図学会公式ブログをご覧ください。

<https://note.com/jcacj/>



- 作品の送付先・問い合わせ先: 日本地図学会事務局

〒153-8522 東京都目黒区青葉台4-9-6 (財) 日本地図センター内

電話/FAX 03-3485-5410 Eメール [info@jcacj.org](mailto:info@jcacj.org)

## 過去の入賞作品



Happy zoofamily  
ロシア 7歳 2023



Between the Clouds  
リトアニア 7歳 2019



My Imagination  
ハンガリー 7歳  
2019



A Turtle's Tear: Our Plastic Oceans  
ニュージーランド 9歳 2019



Stop the Pandemic: We love  
to travel, we love maps  
イスラエル 10歳 2021

いろいろな国の  
お友達と一緒に作品が  
飾られるなんて、  
すてきだね♡





# 都道府県名に注目してみた

●地図研究家 今尾恵介

(いまお けいすけ) / 1959年生まれ。  
出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に「地図帳の深読み」シリーズ(帝国書院)など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。

地図帳で47都道府県の名前をじっくり眺めれば、いろいろなことに気が付く。ためしに訓読み・音読みに注目してみると、両者は混在している。**青森県**や**岡山県**などは訓読みなのに対して、**群馬県**や**東京都**は音読みだ。

県名とその領域は、明治前半期の複雑で頻繁な変更を経て現在のものに落ち着いているが、その名称は県庁が置かれた都市名またはその所属した郡を名乗るものが多い。**兵庫県**は音読みだが、かつて置かれた「つわものぐら」に由来する。県名に採用された兵庫は古い港町で、摂津と播磨の国境の要衝に位置するため、そこを守るための兵器庫がその由来という。音読みにした理由はよくわからないが、実際の倉庫としての「つわものぐら」と地名の兵庫を区別する意図なのかもしれない。

県庁所在都市には近世の有力な城下町が目立つが、こちらは福井、松山、福岡など縁起を担いで大名が改称した例には訓読みが多いが、織田信長が命名したとされる岐阜は音読みである。

古代の郡に由来する県名の中には現代の漢字では用いられない読み方もあって、例えば**宮城県**と**茨城県**の「城」。訓読みは「しろ」、一般的な音読みは「じょう」であるが、かつては防御のための柵を称して「き」と呼んだ。蝦夷の侵入を防ぐために古代に設けられた淳足柵(ぬたりのき)(新潟県)などがそれで、これに城の字を当てたものが古代の郡名—宮城郡、茨城郡の表記となった。

なお、宮城県は「みやぎ」であるのに対して茨城県は濁らず「いばらき」である。ところが地元の人でも「いばらぎ」と読む人は多く、県では2023年に「さらば『いばらぎ』濁点宇宙発射計画」なるものを立てて濁点除去をアピールしている。正式名称はともかく、地名における濁点の有無は、実態としてはかなり曖昧なので、宇宙に飛ばすは

ど徹底しなくてもよいと思うけれど。

一概に音読みといえないものもある。例えば**滋賀県**のシガ、**奈良県**のナラ、**鹿児島県**のカゴなどは典型的な「万葉仮名」による当て字だ。このため漢字の意味から由来を説こうとするのは無理がある。

そもそも日本列島の古い地名は文字のない時代から存在し、その後に漢字が輸入されて文書に記す際にはこれを当てた。「大川(大きな川)」や「山下(山の下)」などは表意文字としての漢字を適用できたが、郡名が成立した古代には、国・郡・郷の名にはそれぞれ良い意味の字を2文字で当てるよう指示されたので(好字二字令)、必然的に万葉仮名タイプが多い。

このことは国・郡・郷に限らず地名全般に影響し、例えば崖を意味するママという和語に真間(千葉縣市川市)の字を当てるなどがそれで、窪に「久保」と付けたり、下を「志茂」とするのも同様だ。歴史的な地名は今に至るまで必ずしもそのまま踏襲されたわけではなく、<sup>てんか</sup>転訛や意図的な変形などを経た結果、今では原型をとどめないものさえあるので由来を探るのは難しいが、逆にこれが地名のおもしろさでもあろう。

さて、**北海道**という名称を不思議だと感じたことはないだろうか。地図のページでは「北海道」「東京都」「京都府」「長崎県」などと記されているのに、統計のページは北海道だけそのまま、他はすべて「東京」「京都」「長崎」と都・府・県の文字が抜けている。固有地名だけにするなら、北海道は「北海」となりそうなものだが、そんなことはしない。

このあたりを子どもに質問されたら困ってしまいそうだが、まずは北海道の置かれた歴史的な位置づけを知るのが先決だろう。周知のとおり、北海道は明治に入るまで蝦夷地とよばれ、その一部



### 3 日本の昔の境界とおもなできごと

1 : 6,500,000  
0 100km

—— 藩の境 —— 藩の境  
—— 1868(明治元年) 前 ——  
歴史地名と地図帳の参照ページ



写真1 松浦武四郎の像  
(にしん文化歴史公園)

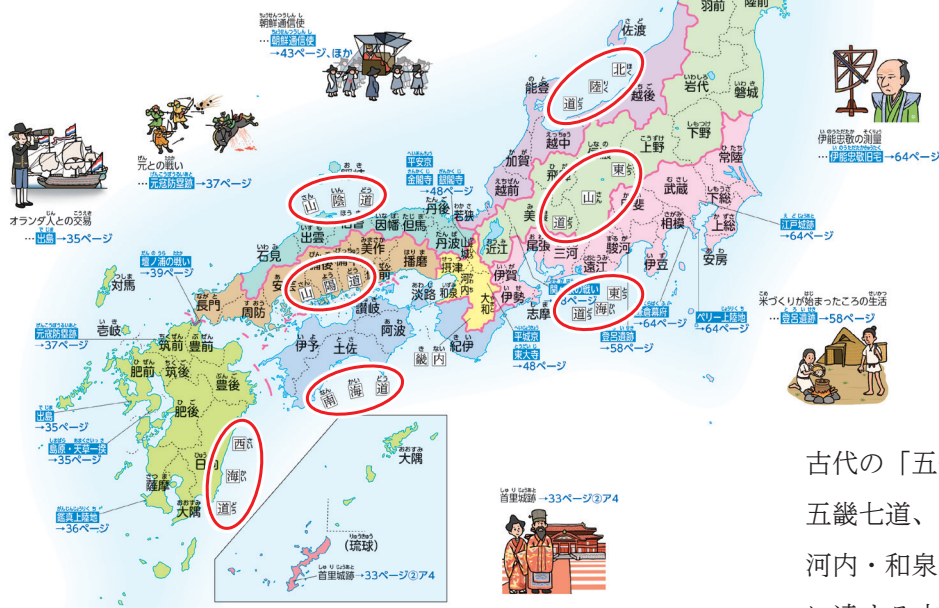


図1 五畿七道と旧国名

令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.109~110

表1 六日町(新潟県)の変遷

明治22(1889)年	六日町村の成立
明治33(1900)年	町制を施行して六日町となる
平成16(2004)年	六日町と大和町が合併して南魚沼市となる
平成17(2005)年	南魚沼市に塩沢町が編入



図2 南魚沼郡六日町の頃の地図「六日町」となっているが「六日町町」というわけではない。(平成10年度版『楽しい小学校 社会科地図帳 初訂版』p.31)

を松前藩が統治していた。明治維新を迎えて明治2(1869)年7月に新政府は「開拓使」を置き、蝦夷地を北海道と改めている。探検家の松浦武四郎(写真1)が提出した6案から選んだ北加伊道の字を換えたという。カイは「蝦夷」の音読みでもあり、松浦は「アイヌ人たちは自らをカイとよぶ」としているが、アイヌ語でカイは「折れる」「背負う」といった意味なので、少し怪しい。

他の都府県と比べて圧倒的に広いこともあって、

古代の「五畿七道」になったという説が有力だ。五畿七道、つまり畿内にあたる山城・大和・摂津・河内・和泉の5つの国と、そこから放射状に全国に達する古代の官道—東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、これに九州内の西海道を加えた7つの「道」と、それぞれに所属する国々という地理的分類(図1)だが、北海道はまさにそれに準拠したと考えれば不思議はない。他の都府県と違って、北海という固有地名がもともと存在しないため、「北海道」が固有地名として扱われたのではないだろうか。

実は市町村レベルにも同様なことがある。今は新潟県南魚沼市の一部となっている六日町がそれだ(令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.62 4ウ)。地名は毎月6の日に市が開かれたことに由来するので、明治33(1900)年までは「六日町村」と称していた。ところが同年に町制施行した際には「六日町町」ではなく六日町となったのである(表1 図2)。長野県の大町市も同様の経緯をたどった。固有地名部分を特定するのは、実は難しい。



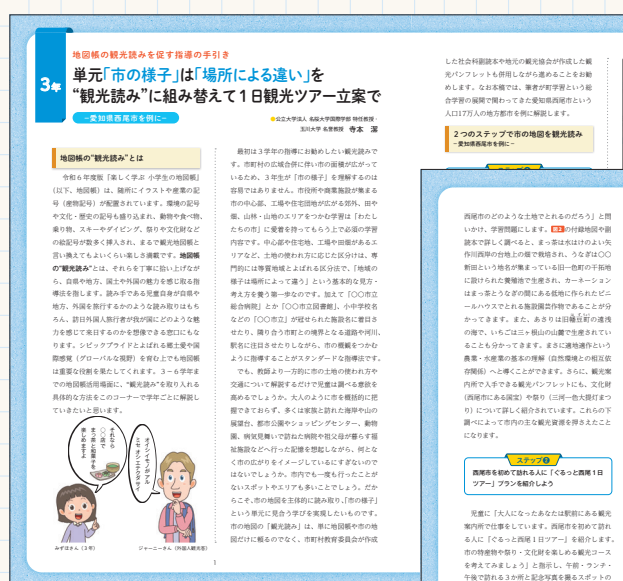
# 帝国書院Webサイト会員限定コンテンツのご紹介

## 新コンテンツ

## 「地図帳の観光読みを促す指導の手引き」

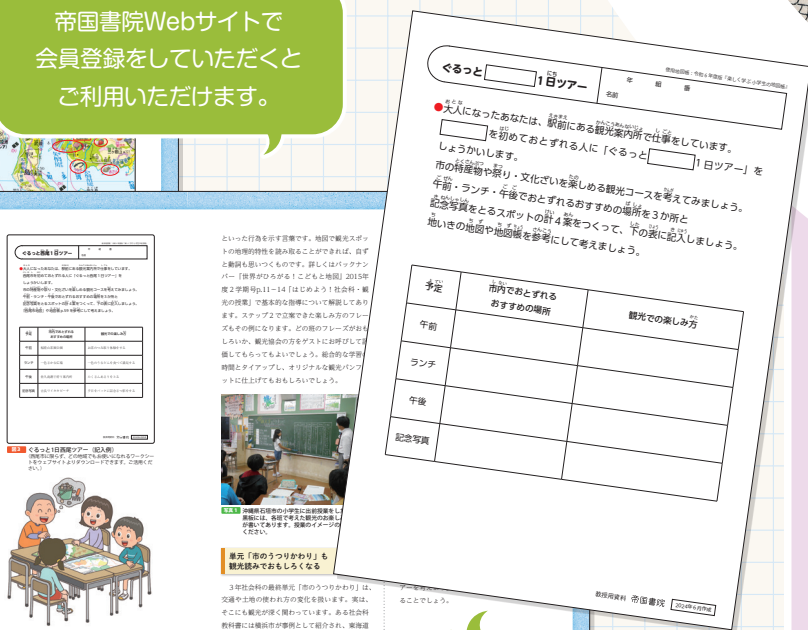
『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』の著者のお一人、名城大学 特任教授 寺本潔先生が、令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』を活用し、学年ごとに社会科や総合的な学習の時間でできる観光学習を提案。授業で使えるワークシートもダウンロードできます。ぜひ、授業のご準備にお役立てください。Webサイト上でPDFファイルでお読みいただけます。

帝国書院Webサイトで  
会員登録をいただくと  
ご利用いただけます。



3年生の例

イラストも入れて  
楽しく！



ワークシートも  
あります！

## 『世界がひろがる！ こどもと地図』へのご意見・ご感想は手軽なWebアンケートで！

今後の企画・編集に生かしてまいりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

Webアンケートへは、右のQRコードからアクセスしてください。

なお、今年度よりFAX用紙でのアンケートは廃止いたしました。長らくご利用ありがとうございました。



＜QRコード使用上の注意＞ QRコードを読み取って表示されたサイトにアクセスした際には、別途通信料がかかる場合があります。

＜本誌掲載の他社商標について＞ 本号に記載されているシステム名、製品名などには必ずしも商標表示（®、TM）を付記していません。

- ・QRコードは、株式会社デンソーウェブの商標または登録商標です。
- ・その他の会社名および製品名・ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。

## 世界がひろがる！ こどもと地図

2024年度後期号 2024年10月21日発行 (No.71)

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

発行所 東京都千代田区神田神保町3-29(〒101-0051)

株式会社帝国書院

発行人 佐藤 清

電話 03-3262-4795(代)

<https://www.teikokushoin.co.jp/>

## 教授用資料

イラスト：すがのやすのり  
写真：トシチャン / PIXTA、  
bj\_sozai / PIXTA